



## クロアチア 英語教育

(2015/08/11)

1995年にユーゴスラビアから独立したクロアチア共和国は訪問した時は独立20周年のお祝いムードに包まれていた。

10世紀頃最初の独立国クロアチア王国が成立するが、16世紀頃にはオーストリア・ハンガリー帝国に組み込まれた。その後1929年にはユーゴスラビア王国(セルビア・クロアチア・スロヴェニア)に参加した。1945年に第2次世界大戦中の活躍したバルチザン部隊を率いたチトーが大統領により、6つの共和国と3つの公用語を用いるユーゴスラビア社会主義連邦共和国となった。1991年独立を宣言し、内戦が始まった。紛争は1995年まで続いた。



このように複雑な歴史を持つ国なので、クロアチア語を公用語とするが、多くの人がイタリア語やロシア語など他のヨーロッパの言語が多少話せる。

学校制度は小学校8年、高校4年(職業高校3年)、大学5年(3年+2年)で、小学校と高校が義務教育である。学費は無料で、大学も試験をパスし、進学できれば無料である。試験には英語も含まれ、例えば250語程度の小論文とリスニング、リーディングのテストである。新学期は9月から始まる。

現在は小学校1年生から高校まで英語の履修が必修になっている。小学校1年生は週に1クラスで、その後は週に3~4クラス程度の英語の授業が行われる。ちょっと前までは英語は小学校5年生から習った。子供たちへの教え方は大変立体的で殆ど本は見なく先生に注目し大変おおきな声で先生の質問に答えている。小学2年生ですでに受動態の文章などが入っているが、子供は先生と同じ言葉を頭から丸覚えをする。その後の年数で確実な英文になっていく。なかなかユニークなそして楽しんで語学の時間のようなのである。幼稚園は3年程度行くのが普通で、英語の教育も行われている。最近の英語への力の入れ方がうかがえる。

第二外国語は学校によって、ドイツ語、イタリア語、フランス語、スペイン語、日本語などが履修できる。日本語はザグレブの大学で履修可能で、他の小さな都市スピリットなどでは履修できない。

実際のクロアチアの人々に話しかけると、中高年の人で英語が話せる人はかなり少ない。ウエーターやホテルのスタッフはほとんど英語が上手である。子供はかなり理解しているようであった。

観光が重要な産業であるこの国にとって、言語は最大の武器であるようだ。マスカヤやオミッシュ等の地方の観光地の旅行客の大多数はヨーロッパから来ているが、アメリカ人も見かけた。ヨーロッパから直行便があるスピリットやドゥブロブニクのような観光地では、日本人や中国人や韓国人も見かけた。世界中から訪れる観光客とコミュニケーションをするのに英語がますます重要になっていると思う。それは、最近海外からの観光客が急激に増加している日本も同様だと思う



あぜりあ Language School 校長勝山ひとみ

